

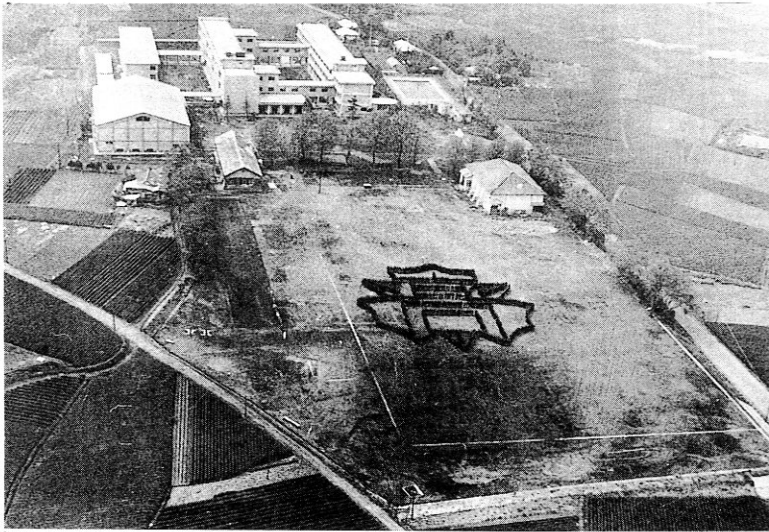
広陵



第19号

2. 7. 20

神奈川県立秦野高等学校同窓会々報



校庭上方左・旧武道場、右・旧講堂（昭和39～40年頃）

同窓会々報 第19号 目次

表紙 題字

宮本 信義(中5)

絵

横溝 英一(中20)

写真 「梶山写真スタジオ」

梶山 敏之(高17)

總會のご案内・平成2年度事業計画

1

予算案・決算の報告

2

ごあいさつ

同窓会長・杉山 健

3

ごあいさつ

学 校長・山本修平

3

退職にあたって

前校長・相田盛二

4

ごあいさつ

教 頭・青木利之

4

秦高離任にあたって

前教頭・小池一正

4

支部だより

前教頭・小池一正

5

同期会・職域だより

前教頭・小池一正

7

尊敬する山下大五郎先生

宮本信義

9

秦中・秦高に想う

宮本信義

10

進学カルテ

宮本信義

12

母校からこんにちわ

宮本信義

14

造林の思い出

海老原治三郎

17

校内幹事異動のお知らせ

海老原治三郎

17

～總會の御案内～ 平成2年度秦野高校同窓会 “平塚でお会いしましょう!!”

— 秦野高校卒業生15,000有余のみなさん —

日時：8月19日(日)

場所：平塚プレジール

農協共済ビル株式会社

平塚市八重咲町3-8

TEL. 0463 (23) 1155(代)

総 会 日 程

- P.M 1:30 受付
2:00 総会
- 元年度事業報告及び決算報告
 - 2年度事業計画及び予算案審議
 - 役員改選
 - その他
懇親会 (参加者 4,000円)
 - 記念講演
日本大学国際関係学部教授
柳川三郎氏

總會のご通知

会長 杉山 健

定例總會が八月十九日平塚で開催されます。各幹事さんが開催時期・方法についていろいろ論議した結果別記のようにましまりました。平塚地区支部の諸兄が設置してくれました。どうか会員諸兄の多数のご参加をお願いします。

平成2年度事業計画

- 一、幹事会總會の開催
- 二、会報第19号の発行
- 三、支部育成強化と会費納入の促進
- 四、名簿販売
- 五、在校生活動支援
- 六、記念造園の整備
- 七、造林調査
- 八、慶弔
- 九、その他

平成元年度事業報告

- 5月～3月 激励費支給
- 県大会ベスト8
 - 陸上17名、弓道6名 計38名
 - バスケット女15名
 - 陸上20名、弓道3名
 - バスケット男15名 計38名
 - 関東大会
 - 陸上2名、弓道1名 計4名
 - バスケット男1名
 - 国民体育大会
 - 陸上11名、弓道2名 計13名
 - バスケット男1名
 - 全国大会
 - 尚、10月29日校内一万里マラソン大会、2月17日部対抗駅伝に賞品を贈る。
- 5月13日(土) 幹事会
5月25日(木) 会報委員会
6月7日(水) 造林調査
7月15日(土) 会報18号発行
8月27日(日) 同窓会總會開催(伊勢原こみや料亭)
9月3日(日) 三校(本校、大秦野、伊勢原) 同窓会連絡協議会
11月9日(木) 造園整備
12月18日(月) 会長、副会長、支部長会議(やなぎや)
・女子駅伝寄付打ち合わせ
1月20日(土) 会長、副会長、支部長会議(松鱈亭)
3月1日(木) 母校卒業式、新会員四六七名迎え入れる
上記の他、年間を通じ、慶弔、プラスチックバンドへの助成などを行なう。

平成元年度 決算報告 平成2年度 予算案

◎ 歳入の部

項 目	元年度予算額	元年度決算額	増減(減=△)
前年度繰越金	1,458,210	1,458,210	0
卒業生入会金	932,000	932,000	0
会 費	1,600,000	1,839,300	239,300
雑 収 入	160,000	639,393	479,393
合 計	4,150,210	4,868,903	718,693

◎ 歳入の部

項 目	2年度予算額	元年度予算額	増減(減=△)
前年度繰越金	832,326	1,458,210	△625,884
通常会計積立よりとくずし	600,000	0	600,000
卒業生入会金	934,000	932,000	2,000
会 費	1,700,000	1,600,000	100,000
雑 収 入	120,000	160,000	△ 40,000
合 計	4,186,326	4,150,210	36,116

◎ 歳出の部

項 目	元年度予算額	元年度決算額	増減(超=△)
会 議 費	480,000	376,399	103,601
総 会 費	250,000	213,122	36,878
幹 事 会 費	100,000	94,057	5,943
委員会費	130,000	69,220	60,780
事業費	3,024,000	3,300,621	△ 276,621
支部育成費	280,000	286,200	△ 6,200
在 校 生 活 動 振 興 費	650,000	699,254	△ 49,254
プラバン助成費	150,000	150,000	0
造林調査費	50,000	22,003	27,997
森林組合賦課金	4,000	4,000	0
造園維持費	140,000	130,000	10,000
慶 弔 費	150,000	54,000	96,000
会報発行費	1,600,000	1,955,164	△ 355,164
事務費	250,000	223,656	26,344
事務局費	200,000	200,000	0
通 信 費	30,000	14,386	15,614
印 刷 費	20,000	9,270	10,730
通常会計積立金	100,000	100,000	0
予 備 費	296,210	35,901	260,309
合 計	4,150,210	4,036,577	113,633

◎ 歳出の部

項 目	2年度予算額	元年度予算額	増減(減=△)
会 議 費	510,000	480,000	30,000
総 会 費	250,000	250,000	0
幹 事 会 費	100,000	100,000	0
委員会費	160,000	130,000	30,000
事業費	2,942,000	3,024,000	△ 82,000
支部育成費	250,000	280,000	△ 30,000
在 校 生 活 動 振 興 費	650,000	650,000	0
プラバン助成費	150,000	150,000	0
造林調査費	40,000	50,000	△ 10,000
森林組合賦課金	2,000	4,000	△ 2,000
造園維持費	130,000	140,000	△ 10,000
慶 弔 費	120,000	150,000	△ 30,000
会報発行費	1,600,000	1,600,000	0
事務費	250,000	250,000	0
事務局費	200,000	200,000	0
通 信 費	30,000	30,000	0
印 刷 費	20,000	20,000	0
通常会計積立金	100,000	100,000	0
予 備 費	384,326	296,210	88,116
合 計	4,186,326	4,150,210	36,116

(元年度歳入総額) (元年度歳出総額) (次年度へ繰越)
 4,868,903 - 4,036,577 = 832,326

通常会計積立金	
62年度	500,000
63年度	200,000
元年度	100,000
利 息	2,088
合 計	802,088

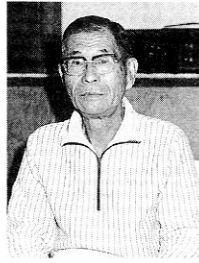
通常会計積立金	
	802,088
	△ 600,000
	202,088

同窓会館積立金	
元年度までの積立金	12,164,048
利 息	417,864
合 計	12,581,912

***歳出に不足が生じたとき、通常会計積立金より取りくずすことができる。

ごあいさつ

同窓会長 杉山 健



同窓の皆様には益々お元気で各分野にわたり活躍のことと心からお慶び申し上げます。

お蔭をもちまして副会長、六支部の支部長、地区役員それに加え、近年とみに進学校、スポーツ校等として頭角をあらわして来た母校で、非常にご多忙の校内幹事諸先生の不断のご協力により、同窓会の運営も順調に推移しておりますことをまずもってご報告申し上げます。

次に昨年末、京都で女子第一回全国高校駅伝大会が開催されました。

たが、母校は神奈川代表として出場し、参加校四十七校の全国の強豪に混りながら健闘し、見事十一位の好成績をあげ、全国に神奈川に秦高ありと喧伝しました。

さて光陰矢の如しと申しますがこの八月の総会で私も三ヶ年間の任期満了となります。

現在は資本主義が高度にすすんで何事も経済優先です。同窓会の運営も会報の発行、在校生への助成等別掲の決算報告の通り相当の運営費がかかります。秦野、伊勢原の両支部は役員のお骨折り、毎年、年度会費を基金しておりますが、他の支部は仲々うまくいきません。そこで本会でも、終身会費制を導入すべきではないかと退任にあたり考えている次第です。去る五月十二日開催の幹事会で

も、この件が提出されました。會員の皆様よろしくご検討下さい。

と、ところで本年平塚で開催の総会には是非共々出席願ひ、何年来、何十年来の旧交をあため、現在立派に成長した母校秦野高校の同窓の絆を確認しあつて下さい。

お願いいたします。さて能條前会長のとを引きついで、会長としての重任を遂行しり致しました。任期満了のため

ごあいさつ

学校長 山本 修平



同窓の皆様ますます、ご健闘で毎日お過ごしのこと存じます。この度、同窓会第十九号広報を発行されることに際しまして、心

本年八月開催の総会で退任いたすことに決心いたしました。

在任中は會員のみな様はじめ、副会長、支部長、その他地区役員並びに、校内幹事諸先生の多大なご援助をいただき厚く御礼申し上げます。

最後に母校の限りない発展と會員のみな様の益々のご健勝をお祈り致します。

からお慶び申し上げますと共に、あいさつの機会を与えられましたことを深く感謝いたします。

秦野のこの地に、将来を洞察され先覚者の方々によって呱呱の声をあげ、以来連綿として今日に至る間、諸先輩の方々のためゆめ努力によつて、大河となつてとうとうたる流れを生じている本校を思うとき、同窓生の皆様も感慨ひと

しおのことも思います。

私も時の流れと申しますが、時の蓄積といましようか、校門を入ると何か言い知れぬ清々しい想いが湧き上がってくることも、すべてのものに歴史が滲みでているような気がいたします。こうした目で秦野高校生をみると歴史の重みを感じずにはいられませんが、幾多の諸先輩から引き継がれて来た一つ一つが小河から大河となつて秦野高校生の胸の中に生き活きとゆつたりと流れ、生きていることをひしと感じるものがございます。このような立派な足跡を残され秦野の名声は広く世に示されたことに対して敬意と感謝を申し上げます。

私も、今回の異動で参りまして、このすばらしい伝統の足跡をけがさぬよう職務に精励し、学校の充実ははかつていく所存でございますので、より一層の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。ごあいさついたします。

退職に当って

前校長 相田盛二

同窓会の皆様方には、在任の三年間、何かとご厚情を頂き、厚くお礼申し上げます。

同窓会といえますと、とかく教育活動の面で、学校と疎遠だという同窓会もあるようですが、本校同窓会では、学校へのご支援、ご協力も密で、この点、改めて感謝申し上げます。このようなご支援が、生徒の学習面、生活面などの多くの面に、よい結果を生むことになっているように思います。

また、広く社会の中での同窓生の活躍を、いろいろと見聞します。そして役所や事業所などで、「私は秦高の卒業生です。」「私のほかに〇名います。」などと挨拶をされる時、同窓生の人間味のある協調心や連帯感を、強く感じます。ここには、地域の期待と伝統の中に育かれた秦高に学んだ同窓生の心の絆の強さを、つくづく

と感じさせられます。

私は秦高には、60周年の行事が終わった翌年に転任してきました。しかし大きな流れで考えてみますと、秦高の一つの転機に転任してきたようにも思えます。学級数や

女子生徒数は、開校以来最大に増加し、また、地域の中心校として、進路状況も一段と飛躍しています。そして校舎施設の改修、新築、改築の計画、更には、長期動続の教員の異動など、この三年間の変化には急なものがありました。

このような学校で、公職三十九年間の最後の三年間を勤められたことは身に余ることで、至らない点多々あったかと思いますが、深く感謝申し上げます。

これからの学校教育は、一段と繁雑さや多様さが増してきました。同窓会の皆様方には、今後も、より一層のご支援をお願い致します。

最後に、本校同窓会が、ますます発展されますことを祈念して、退職の挨拶と致します。

ごあいさつ

教頭 青木利之



この度1/16付母校の教頭になりました事、大変光栄に思っています。長年勤めての持ち上がりですので、心強い面もありますが、一面よく知られているので、不安でもありません。

四月からは、相田盛二校長が退職され、新たに伊志田高校長山本修平先生をお迎えしました。相田校長には僅か三ヶ月でしたが、いろいろと御指導を頂き、教頭としての仕事の一端を掴むことができました。引続き山本校長のもと、下座行に徹して教頭の務めをはたしていきたいと思えます。

日頃同窓会の皆様には、いろいろな面で有形・無形の御援助を頂き感謝致しております。昨年の女子第一回全国駅伝競走大会には、

東京支部の寄付金を皮切りに、爆発的な協力の申し出があり、百万を突破しました。また中学十二回卒業生が、「卒業五十周年」の記念として、母校に美術全集や、記念誌を寄贈されました。これらはほんの僅かの例にすぎません。

生徒諸君も、このような先輩達の御好意に甘えることなく、「桂の薫る島」に漕ぎ着けるよう精進して欲しいものです。

秦高離任にあたって

前教頭 小池一正

(綾瀬高等学校校長)

秦野高校同窓会の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。六十二年四月、豊かな自然に恵まれた広畑が丘の、輝かしい歴史と伝統の秦高に着任しました時の私の喜びと感激は生涯忘れることはないでしょう。草創百年祭を一つの区切りとして、あらたに創造の二百年に向かって、学校と同窓会が一体となつての力強い歩みの第一歩がいよいよ踏み出された

インテグラルシステムキッチン SUNCIEL

sunwave

代表取締役会長 須山喜一

中第7回卒業

活力に満ち溢れた寒開きの、すばらしい熱気満々の中でした。草創以来、地域に確かり根ざした学校として連綿とした質実剛健の気風は「自らに厳しく、自らを大切に」乍ら他をおもんばかることの、優れて心の広い秦高生」を育くみながら、校庭のいちようやすすか

支部

だより

東京支部

十一月九日の支部総会は、新宿の「ホテルサンルート」で開催され、須山会長以下、七十名が出席しました。本部及び校内幹事が来賓として出席され、在校生のフルート演奏等があり、最高に盛りあ

がった秋のひとつでした。
中国の「文撰」の古詩に、「越鳥、南枝に菓く、胡馬、北風に

けが毎年若芽をふいて大樹に繁って行くように、益々発展して行くことと思います。私も秦高で得た貴重な体験を新設十四年の綾瀬高校で生かすように努力を重ねて行く所存です。会長さんはじめ、同窓の皆様衷心より感謝申し上げます。あいさついたします。

嘶く」という一節があります。南国の越の鳥は、菓をかけるにも故郷に少しでも近い南の枝に菓をかけ、胡の国の馬は、故郷から北風が吹いてくると、懐しきに思わずいななくという、望郷の思いを托した詩文であります。私も東京支部一同、南枝に菓く、北風

秦野支部

年会費は機関誌「広陵」配布時に地区役員が個々の会員宅を廻って徴収しているのであるが、仲々苦勞があると述べられる声が多く聞かれる。

○退会を申し出て会費を辞退する者。○留守勝ちで再三訪ねやつと集金できる場合。○同窓会はどんな活動をしているのかと訊ねられる。○会費は何に使われているのかと疑問視する者。○既に移転して無駄足を踏むケース。○他市町の会費納入はどうなっているか比較質問される者。等々。会費が同窓会収入の大きな比重を占めている現状で秦野支部は足による集金である。これを振込方法にしたら100万円の額は到底望めない事を知

が左に変更されました。
〒160東京都新宿区新宿二丁目五番一號、アルテビル新宿8F

って多くの役員は母校での往時を懐旧しつつ一年一回だからと自分に云い聞かせている。
榎本主治(高2)
伊勢原支部
今年一月二十一日に秦高柔道部伊勢原地区OB会が正式に発足致しました。当日は恩師の白井幸彦先生(ご退職 七段はじめ込山英雄先生(現神田高校教頭 六段)、武藤清司先生(現秦高柔道部顧問)のご臨席を仰ぎ盛大に発会式を開催致しました。伊勢原地区に在任のOBの皆様三十名が出席しました。また特別ゲストとして秦野市より柳川忠一先輩(柔道部第一回生)にも出席をお願い致しました。和気あいあいのうちに今後の柔道部OB会の存続と発展を期し、また母校柔道部に対し積極的な奉仕活動が出来るようOB皆様方のご理解とご協力を得ました事を報告致します。また、四月二十一日

のれんと味
網元直営
創業明治26年

海老

広 沢 富 正 (中9回)

DARUMA 小田原市民会館前 ☎0465-22-4128(代)

に第二回懇親会を開催致しました。秦高同窓会伊勢原支部の中村通雄支部長、喜多実、賀川義光、横山清太郎副支部長をお招きし爽りある懇親会が出来ました。ここに深く感謝申し上げます。今後は同窓会伊勢原支部のご指導のもと、伊勢原地区OB会はもちろん、秦高柔道部OB会の発展と秦高柔道部のために少しでもお役に立てればと思っております。

柔道部伊勢原地区OB会

会長 畑野公保(高7回)

平塚支部

「支部会員の集い」を昨年7月に開催しました。会場には金目の光明寺を大久保良充住職(中18)のご好意で借借できました。

観音堂内で住職の蘊蓄を傾けた寺の由緒についてのお話には、参加者一同新たな感銘を受けました。特に、寺の重要な文化財も拝見することができ、ながい時代の流れ

の中での障害を克服して、今も坂東七番の霊場として、威容と風格の持続には意義深いものを感じました。拝観後の懇親会では、若いも若きも一脈通ずる同窓会ならはの雰囲気、楽しい一時を過ごすことが出来ました。今後も変わらぬご支援をお願いします。

さて、本年の秦野高校同窓会の総会が、平塚駅南口「アレジール」で開催されます。振るつての御参加をご期待申し上げます。

山中彰藏(中17回)

小田原支部

今や同窓会員は一万五千余名ともなり、毎年の卒業生が五百名余の現状を十分承知をし乍ら全体の同窓会をどうするか、只一番有難いことは現秦野高校はすべての点で他校をリードしていることで

す。同窓生にとって現在母校はどうなっているか、校長を中心に教師側も又生徒諸君も実によく頑張

っている。先般秦中十二期の五十年記念をやりましたが、お陰で久振りに胸を張りました。この状態が続く限りこれにふさわしい同窓会が生れることは当然であります。同窓会として今直ぐにでも手をつける必要があるものは各卒業年度ごとの基となる資料を集めること

でその年度毎の実体が判明すれば必ず会の今後の方針が決まりそれぞれの卒年毎の同窓会も前とは別の形で展開すると思えます。何れ具体的に申し上げられる日の近いことを楽しみにして居ります。

柳田敏雄(中12回)

茅ヶ崎支部

当支部は通称湘南支部と言われます。卒業会員も150名を越えています。現在その活動は停滞しており、気をもんでいる中に一年を過ぎ今年度の総会を迎える頃となりました。その一年の中で、いくら

か気が安まるのは、同期中十一回の級友の協力と実行委員のご努力で卒業五〇年の記念行事を約一年かけて行い、今年四月新緑の箱根で夜更けも知らず酒杯をかわし一夜を明かしました。御骨折を頂いた仲間の中から御礼を申し上げます。支部の活動も、出来る事なら同期ごとの集いを開き、親睦と交流をはかり、更に鎖の輪をつなぐようにして、地域のおつき合いを深めていきたいと思えます。学区の編成等もあつて、母校のニュースも遠のき、会員意識にも希薄化の

昨今、真剣に努力しなければならぬと同時に責任の重さを感じます。金子 尚(中12回)

表絵スケッチ「通学路」

横溝 英一

大根地区は、開発による変化がはげしい。この絵のあたりは昔とあまり変っていない、数少ない場所ではないかと思う。坂道の緑陰が、遠い記憶の中にある。

株式会社 小田原魚市場

小田原市早川1-10-1

広 沢 富 正 (中9回)

広畑会

広畑会は、昭和三十八年三月卒業までの秦野高校(旧秦野中を含む)出身の教育関係者の会です。

今年で発足十五年目を迎えるこの会は、会長・元

湖南高校校長古屋一男先生(88卒)幹事長・前開成町教育長中野誠一先生(88卒)をはじめ、聖マリヤンナ医大常任理事福山善夫先生(S15卒)、小田原市教育長柏木文夫先生(S15卒)、秦野市教育長酒井持

同期会 クラス会 たより

先生(S15卒)、二宮町教育長橋川真一先生(S16卒)、県教育庁社会教育部長一見哲次先生(S28卒)、小・中・高校の管理職経験

者や現職の先生等々、三百七十余名にのぼる会員で組織されています。

中でも出色なのは、元文部省管

理局長で現参議院議員として活躍の柳川覚治先生(S19卒)です。

こうしてみますと、広畑会がいかに神奈川県はもとより、広く日本の教育の発展向上に寄与しているか、おわかりいただけるものと思

います。一九九〇年代を迎えた教育界は来るべき二一世紀への教育の方向と教育の具体化を図ることを求められていきます。同窓の後輩諸子に

は、校歌にも詠われてますように、理想に燃え、祖国になほむ心

意気で、二一世紀を目指し社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間になつていただきたい。

また、同窓諸氏のご理解とご支援があれば、わが広畑会ますます充実発展するものと思

います。

須山孝記(高1回)

母校の躍進に誇り

— 伊勢原市役所 —

わが母校は、三部公立学校から育英学校に至るまでの四十年と、大正十五年奈珂中学校として、広畑ヶ丘に根づくこと六十年の輝かしい伝統がある。

先輩諸兄のご尽力による創立六十周年・草創百年祭が、挙行されたことは記憶に新しい。

近年は、名実共に学区内における中心校として、先生方のご指導のもとに、進路状況やスポーツ活動に、実績をあげていると聞き及び、誠に喜ばしく、誇りでもある。

伊勢原市役所に広畑会を結成したのは、昭和三十三年である。当時は、町役場で同窓生も少なく小

川久治(中9)・横山清太郎(併1)・中村通雄(併1)・加藤武雄(高3)・小泉暉三(高3)・高橋三郎(高4)の出席を得られたら、とそんな夢

北村忠男(高9)・長谷川美夫(高9)等のメンバー、会則は定めず、

順次幹事役を果たすユニークな会であった。先輩後輩の別なく、なごやかに懇親会や旅行などの同窓活動を行なう。後日、県野球大会決勝戦の応援等楽しい思い出もある。

昭和四十六年三月一日市制施行。昭和六十一年三月一日市民と行政との「まちづくり」の合言葉「健康文化都市」宣言をする。その市民ニーズに応え、現在の同窓生は八十名で、それぞれの部門で、管理監督者、中堅職員として日夜職務に努力している。

広畑会活動(中村通雄会長)は年一回の懇親を兼ねた総会開催。本部会費納入の支援など、母校の健全な発展にも、貢献していると思

います。公務にたずさわっているため、全員の出席は望めないが、支部総会・本部定例総会に、多数の会員

各種工作機械・自動専用機・自動組立機・汎用工作機械



株式会社 三陽商會

代表取締役 金子 尚 (中12回)

〒251 藤沢市城南4-10-35

0466-34-1811(代)
FAX. 0466-34-1813

活動する

県庁広陵会

などにより、勉学やスポーツを通しての母校の躍進を会員一同喜んでるところであります。

当会がスタートしてから二十年

神奈川県庁に勤務する秦中・秦高出身者で組織する県庁広陵会は昭和四十六年十月にスタートして以来、二十年の間、総会等の活動を継続的に進めてきました。会員数も当初は一二八名であったものが、現在は二五〇名と大幅に増え、女性の会員も一〇名を数えております。

この間、昭和四十六年と四十八年には、多くの会員が在学中教えを受けた杉山茂雄先生（長風先生）を囲む会を開催して青春時代の思い出を語り合ったり、また昭和四十九年には、母校創立五十周年記念事業への献金活動を展開し、

〇〇名ちかひ、会員の協力も得ることもできました。その後も高校野球の応援に馳せ参じたり、高校駅伝での活躍を全員で喜び合ったり、さらにPTA広報紙の全会員配布

の間、活動を続けられたのは、初代表幹事の福山善雄先輩（中十二回）聖マリヤアソシエーションの金井健一先輩（中十八回）厚木商工会議所専務理事、三代目の内田均先輩（高二回）県労働福祉協合理事長のご協力と全会員の御協力の賜物であります。また県会議員の中村省司先輩（高十五回）の御支援も心強いものがあります。

今年総会を7月中旬に西丹沢温泉「ハイツ&ビイラなかがわ」で盛大に開催するため、一見哲次代表幹事（現人事委員会事務局長）を中心に幹事団が準備をすすめております。

質実剛健に代表される母校のますますの御活躍と同窓会の御発展を会員一同心からお祈りいたします。

北村紀男（高11回）

中十三回卒業生 同期会



顔と氏名が一致せず戸惑う者もい、秦中時代の思い出話の中で、「そうだお前だ元気が良かった」と大変な盛会でした。同期会を「秦十三会」と名づけ、担任の亡き鈴木昂先生と物故者戦死者十三名に黙とうをささげ、鹿児島に御健在の三浦政藏先生に贈る寄せ書きをつくり、再会を約して散会した。平成元年十一月第三回秦十三会を湯ヶ島「かしわぎ」に一泊で開催した。出席者十八名で三回目ともなると、皆すつかりうちとけて、自分の歩いてきた人生を話しあい、今後の我々の生き方、社会とのかかわり方等お互いに示唆されるものが多かったようです。朝食の時、秦高女子駅伝チームが県代表として、十二月京都での全国高校女子駅伝に出場する新聞記事の話がでて、その壮行に五万円を秦十三会から贈ることが決まり、十二月六日私と原興三君で母校にとどけました。

昭和十六年卒業の私達は、大正生れで激動の昭和を生き抜き、平成の時代を迎えて漸く自分の人生を静かにふりかえることができる年代になりました。二年前同期生の葬儀に参列した数名が発起人となり、第一回同期会を平塚の「みずほ野」で開催した。出席者二十二人（卒業生八十四名、物故者二名）が四十数年ぶりの再会で、

鷲尾隆（中13回）

公認 荒井自動車学校

戸田校 伊勢原市下落合303-11 ☎0463(94)6601

花水校 平塚市長持310 ☎0463(31)1461

代表取締役 荒井権八（中第17回卒）

中第十二回生

卒業五十周年を迎えて

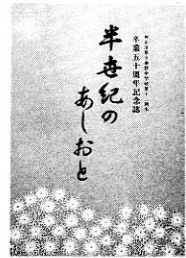
記念誌の発刊と

母校へ記念図書を寄贈

私達は昭和十五年三月四日に母校を卒業しました。平成二年は丁度、卒業五十周年に当ります。

卒業したときは、準卒を含めて七十七名でしたが、現在は四十七名となりました。中退の級友一名の参加で「第十二期級友会」の会員は四十八名です。

この度、激動の昭和を生き抜いて来た級友が全員賛成の下に「卒業五十周年記念事業実行委員会」を組織し、夫々が役割を分担し合



い、一年がかりで遂行しました。

その成果が、全員寄稿による記念誌「半世紀のあしおと」と、母校への教育用記念図書「大系世界の美術」全二十巻、「日本美術全集」全二十五巻です。これらの経費は全員の拠金により賄いました。

去る四月十五日には、箱根で記念総会を開催し、席上、山本校長先生を通じて母校に贈呈しました。来るべき二十一世紀へ向けて、

文化的教養豊かな後輩育成の一助となれば大きな喜びです。

終りに、この事業は、現在級友四十八名の五十周年変らざる信頼と友情に結ばれた私達の長い生涯における記念すべき「永遠の心のもし火」でした。

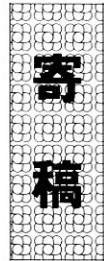
福山善雄(中第十二回)記

尊敬する

山下大五郎先生

宮本信義

(旧職員・中五回)



です。これが縁で秦高在職中から先生の宅へ遊びに行ったり、先生も私の家に数十回もお出で下され、宿泊も何回もされました。

先生の下さる封書でもハガキでも必ずと言ってよいくらい、季節に合った肉筆の絵が添えてあります。一流の画家の先生がこの様にされますことは考えられないことです。また時には画用紙や色紙等に絵を画いて送って下さいました。

死去される一週間前にも電話でお話し、十三日の早朝訃報に接し言葉も出ませんでした。

現在秦高の校長室に展示してある大きな絵は山下先生の作品で、同窓会の寄贈のものです。

追って

平成二年三月十三日より二十五日まで、東京セントラル美術館で「日本経済新聞・東京セントラル美術館主催で大作百点の個展開催、全作品非売品。」

続いて読売新聞日曜版に五月六日「安曇野田植え」が発表された。

株式会社 連合印刷センター

東京都港区赤坂2-10-17

代表取締役 熊澤弘雄

(中19回)

秦中・秦高に想う

時代を越えて深まる絆 広畑ヶ丘発

(株)タウンニュース社本部長 伊藤弘通(高27回)

「秦中・秦高に想う」の企画も今年で三回目を迎えた。今回は、中三回から高三三回まで、十年を一つの区切りとして、それぞれ

の時代に広畑ヶ丘から巣立った同窓の方々に、在校時のエピソードや現在の心境について伺ってみた。大)で教鞭をとる。現在は、会社

で、相模工業大(現在の湘南工科大)で教鞭をとる。現在は、会社

東は固かったという。当時、常駐兵舎だった教室が、終戦と同時にあらゆる物質が兵隊に持ち出され

大正リベラリズムを 謳歌! 読書に没頭 湯沢昇平さん(中3回)

昭和四十七年から昭和五十年まで同窓会長を務めた湯沢昇平さん(七十六歳・平塚市在住)は、大

正十五年四月に学校組合立奈珂中学校に入学。大根村小学校を間借りしての開校、同年秋の新校舎完成など、創立当初から五年間を奈珂中で過ごした。中一回・中二回の

卒業生が主に育英学校からの編入組であるのに対し、湯沢さんの学年が最初の奈珂中入学・卒業組といえる。「私の中学時代といえ

ちようど大正リベラリズムが花開いた時だね。子供のくせに哲学書を筆頭にマルクス、エンゲルスからヒトラーの書物まで、自由に

相談役の傍ら、中国語の翻訳を手がけている。「秦高には一万五千有余人の卒業生がいる。その存在自体が、この世界に対してどのような影響を及ぼしているか非常に興味深いね」と言葉を結んだ。

「同期の卒業生八十四名のうち、戦死者は十三名もいるんですよ」と話すのは、税理士の村山富之助さん(六十六歳・秦野市在住)。

昭和十六年三月に県立秦野中学校を卒業している。同年十二月に太平洋戦争勃発。多くの学友が、予科練からまた学徒出陣で戦地に赴いている。日本が戦争へと突き進

んでいった時代に広畑ヶ丘で中学生生活を送った村山さん。自由は確かになかったが、逆にクラスの結束は固かったという。当時、常駐

学徒出陣の世代 多くの友が戦場へ 村山富之助さん(中13回)

東京新聞の校閲デスクとして活躍中の窪島惇一さん(五十七歳・東京都練馬区在住)は、昭和二十

年四月秦中入学、二十六年三月秦高卒業。「六年間過ごした母校の思い出は、わが家から遠く望める阿夫利の山の上に数限りなく浮かぶ」と言う。「教育勅語」が入試

問題で、登下校の途中、弘法山をかすめ超低空で来たグラマンの機銃掃射や高射砲の破片を避けて才

秦中の入試問題 に「教育勅語」 窪島惇一さん(高3回)

小田急不動産ハウネットワーク

三宅商事株式会社

本社 神奈川県秦野市本町2-1-32
〒257(秦野駅前・三宅ビル1F)
TEL (0463)82-3311(代) FAX (0463)81-2378
湯沢支店 神奈川県秦野市柳町2-1-18
〒257 TEL (0463)87-3377(代)

代表取締役 内藤 優(高第6回卒)

略奪の跡のようだったのを見て敗戦を実感したことなど、終戦まで記憶が強烈。戦後は「勉強しないでバスケットばかりやってた。お陰で体操の成績だけはオール5だったよ」と笑う津島さんだが、不揃いのユニホームと靴で県大会二位の記録が自慢。また卒業時の恩師の言葉「盆地人間からの脱却を」と「一ヶ月に一冊は本を読め」は今でも忘れないそうだ。

参加したかった マラソン大会!?

吉川雅子さん(高13回)

吉川(旧姓五島)雅子さん(四十七歳・伊勢原市在住)は、伊勢原中学校の数学科の教諭。昭和三十三年四月に入学、昭和三十六年三月の卒業である。同学年で入学した女子は八名。その後、転校してきた一人を入れても九名。「女子生徒は、とても優遇されましたよ。男子生徒が掃除中にたき火をして、その中に隠しておいた焼イ

モをもらったりね」と微笑む。それに体育の授業もまともにやった記憶がないという。男子とは別に雨天体操場で卓球をやったり、土手のくぼみに隠れておしゃべりしたりと「今だから言うけど、まったくのレクリエーション気分だった」とか。ただ、一万メートル大会は参加しなかったそうで、三年間記録係に廻されたことを残念がる。「女子だけで、年に一回ぐらい集まって旧交を温めています。気ままに過ごさせてもらった三年間でした」と。ご子息も現在、秦高の一年に在学。横浜国大卒。

大学紛争の 余波の中で:

小川直之さん(高23回)

昭和四十六年三月卒業の小川直之さん(三十七歳・平塚市在住)は「やはり高校時代が一番大きなことと言えば、大学紛争の余波で学校内でもそうした動きがあったことですね」と穏やかな口調で話

す。小川さんが高校二年生の秋、体育祭の後夜祭問題で全校集会が紛糾。翌年には制帽着用も自由化も行われる。また、平塚から通学していた為、よく東海大学のキャンパスの中を往来していたが、ある日突如、鉄のフェンスが周囲にできて自由に学内に入れなくなりました。それまで、大学とは自由の場であると信じていた小川さんにとって、かなりショックな事件であったという。卒業後、国学院大学文学部を経て、現在は平塚市博物館の民俗学担当の学芸員を務める。「今の秦高は確かに学力は上がっていると思いますが、これは他校にも言えることですよ。うけれど個性がなくなっているような気がします」と憂慮する。

磨けば光る 金の卵たち!!

石井康雄さん(高33回)

石井康雄さん(二十七歳・伊勢原市在住)は、今年で卒業十年目

を迎える。「入学早々、体育館で新人生向けのクラブ活動の紹介があったんですが、突然ある先輩の名前の大合唱が起こって、そうこうしているうちに、その先輩が壇上にあがって「くちなしの花」を歌ったんです。何かおもしろい学校に入ったなあと思いましたが、十数年前を振り返る。当時の秦高は、さほど受験勉強にこだわらないノンビリした高校で、先生からは「君たちは金の卵、磨けば光るんだがなあ」とよく言われたそう。一時、陸上部に在籍していた石井さん。箱根大学駅伝で活躍した今川博喜選手と共に練習したが、思い出に残っている。日大卒。現在は電話関連の会社に勤務

宝飾品手造りの店

宝石、貴金属、時計、メガネ、贈答品(卸・小売)

株式会社 **ふじ徳**

伊勢原市東大竹1,555-1 TEL 0463(93)6407 FAX 0463(93)6455

代表取締役 **畑野公保**(高7回生) **FUJITOKU**

進学カルテ 母校から

- ▷ 国公立離れストップ ◁
- ▷ 文系中堅私大総難化 ◁
- ▷ 理系中堅私大合格増 ◁

進路指導部 宮田忠臣

今春の進路結果は別表の通りで、大学、短大、専門学校への進学及び就職の割合は、ほぼ昨年と同程度でした。今年度の特徴は、国公立離れが止まり、文系中堅私大の総難化、理系中堅私大の合格者増ということになります。いわゆる全国的に言われている「文高理低」の傾向が本校でも現れています。

国公立大は、共通一次に変わるセンターテスト、AB日程、前期後期日程と複雑多岐にわたる入試制度にもかかわらず、今年度は、昨年度より二十九名多い百一名のセンターテスト志願者がいました。東大を始め、一橋、北海道、名古屋、信州大医学部等の難関大学を中心に二十名の合格者がいました。私立大は文系が一層難化し、男子希望者の六割近くが浪人となりました。一方理系は各レベルの大学に合格者を見て、浪人は四割に止っています。合格者延数は昨年の並みの四百名近くでした。明治、青山学院、明治学院、法政、東京

理科等の合格者延数は昨年より減りましたが、早稲田、上智、国立の合格者増に伴って、実際の入学者数は昨年並みの二百名近くでした。早稲田、上智、東京理科などの有力大学への入学者が年々増加しています。

短大は、昨年より減少し、四年制への希望者が多くなっています。合格延数では、神奈川外語短大四名、上智短大六名、大妻女子大十五名と上位校での活躍が目立っています。短大は女子の希望者がほとんどで、推薦制度を利用する生徒が増加しています。このことは、四年制の大学でも同傾向で、入学者の二十五%五十名が推薦です。次に専門学校の進学者は、昨年より減少し、十九名でした。

就職は、企業からの求人が、百三十八社からきており、神奈川県職員、小田急、アンリツ等十名で、どの生徒も各自の希望のところに就職しています。

以上が今春の進路概況ですが、

平成元年度 卒業生進路状況

コース	性別	卒業生数	進 学			就 職	浪 人
			大学	短大	各種		
文 系	男	169	58	0	8	4	99
	女	157	68	61	8	3	17
理 系	男	122	66	0	1	3	52
	女	19	10	2	2	0	5
合 計	男	291	124	0	9	7	151
	女	176	78	63	10	3	22
計		467	202	63	19	10	173

いずれの方面に進むにしても、規則正しい生活の中から自分の目標を持ち、不断の努力をしている人は必ず成功しています。はからず活躍されることを期待しています。

も浪人する生徒も百七十名近く、ますが、いずれは目標を達成し、社会に出て同窓会の皆さんと同様に活躍されることを期待しています。

翔る 吉田佳織 北海道国体四位入賞

関東国体優勝 県総体優勝

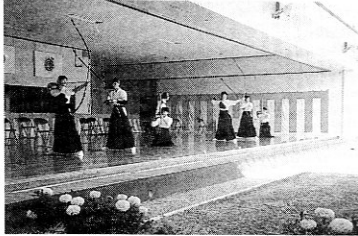
顧問 宮路 日出夫

全国高校弓道選抜大会で、決勝まで進出したあの吉田佳織が、秦高の高邁な精神力と覇気のある所を見せて旋風を巻き起こした。

平成元年6月の県総合体育大会の決勝戦では、延長3回戦の接戦の末、横須賀高校の一柳選手を破り宿願の優勝を果たし、香川県での全国総合体育大会に県代表として出場した。また、7月には、県

こんにちわ

百射大会で、成年男女を含めた中でも、100射87中して驚異の優勝を飾った。さらに、8月には、栃木県の鹿沼での関東プロック国体では、近的一位、遠の四位、総合で優勝して、関東地区代表権を



大健闘、吉田佳織 於北海道

りまとめ、学業成績も抜群で部の模範であった。山梨県での合宿の時には、皆寝静つた中に、一人朝4時起きて練習している姿があった。また、関東選抜大会では、前半調子が悪かったが、後半皆中し優勝に導いたが、その裏には、明治神宮の練習巻藁の床の上に、彼女の逆転への闘志の思いを込めた大粒の真珠の涙の跡もあった。さらに、香川の全国大会にも風雨の強まる中を、野外練習場で泥んこになりながら、あと一中で決勝に進出できなかった原因を究明していた真摯な姿もあった。一敗地に塗れても、二度、三度と立ち上って行く姿は、永遠に後輩達に語り継がれて行くことだろう。

この彼女に刺激されて10月に一年生の岩渕正友が、神奈川大会で敢闘賞を獲得し、再び関東大会に出場し活躍した。これも、熱心な佐々木春彦コーチの御指導と、多くの先輩や地域の方々への御援助の賜物と感謝しております。

【共に創り 共に演じる楽しさの中】
演劇部顧問 片山正道

私が顧問を担当したのは昨年度からですが、演劇部の第一印象は、個性的なメンバーが多い中、皆とても仲が良くまとまっているというものでした。高校の演劇部は、こも部員不足（特に男子）、それが劇作りの上で大きな制約となっているのですが、秦高の場合、29名と多く（内、男子8名）、他校の羨望的となつています。3年生が入学した当時わずか2名だったことを想えば、まさに隔世の感があります。

満足のいく舞台を持つことができました。公演前は朝練や休日練習も入ってきて体はクタクタ、又仕上がりが遅れて精神的にはイライラの連続なのですが、何故か本番の出来は予想以上に良く、本番が終わった時の充足感、爽快感は何物にも代え難く、それが又新たな創造のエネルギーを産み出す源となっているようです。

今年も9名の新入生を迎え、現在は毎日基礎練習に励んでいます。7月の文化祭、さらに夏季強化合宿を経て、秋は地区大会と厳しいスケジュールが続きます。秦高の演劇部でなくては出来ない様な若さ溢れる舞台を自ざしていきたいと思つていきます。

ロックの新時代に向けて
顧問 久保 光弘

現在サウンド研究部は、一年生31名、二年生23名、三年生33名、計87名という大所帯を誇ります。活動の方も、各学期の終りに視聴

母校から

算教室で開催する二日間にわたる定期ライブ演奏(出演するバンド数はその技術は別として、近年のイカ天ブームとともに増加の一途を辿り、この三月の卒業ライブでは実に16組を数えました)。

の各バンド単位での練習です。ドラムセット、アンブ、スピーカ、マイク等一通りの機材は揃っていますが、何如せん大所帯の悲しさ。仲々練習日が回ってこないというのが実情です。ところが昨年、やはり〇Bの御好意により、不要になつたということでドラムセットを寄贈して頂きました。ここでも多くの方々に支えられています。

最新のプリンセス・プリンセスのハートは男の子にも負けないようです。一体、ロックンロールとは、50年代のその発生の時から、大人達の眉を蹙めさせる、猥雑で危険な、反体制側の象徴だった筈です。ところが今の部員達にはそんな屈折した怒りは微塵もなく、皆明るく素直で、此方が逆に戸惑ってしまう。だがそれこそが新しいロックの精神なのでしょう。

彼等に拍手という思いです。

えようと努力することにより、人間として成長することができるの

剣道部の活動と近況

顧問 小川 亜土

現在、部員は男子一八名、女子五名、マネージャー一名の合計二四名で日々、稽古に励んでおります。剣道人口は増え続けているにもかかわらず、高校に入学して剣道を続ける者が少なくなっているのが現状であり、この傾向は剣道部だけでなく、他の運動部も同じ傾向にあることは非常に寂しい限りです。その中にある、我剣道部は、部員一人ひとりが一つのことをやり抜くこと、また常に自身自身を成長させようと努力することとを目標に稽古に励み、これらの目標を達成するため年一度、夏合宿を行っています。この合宿は、毎年七月下旬、山中湖畔の合宿所で行ない、その稽古内容のどれも決して楽なものではありません。しかし、その苦しみを乗り越えようと努力することにより、人間として成長することができるの

だと思っています。剣道部〇B会からの支援も多大にあり、また諸先輩が成し遂げた県大会優勝、関東大会出場等の栄光を目標に各大会には高成績を残すべく頑張っております。

毎年、新年稽古会を二月二日、午前中に秦高体育館にて実施しておりますので、剣道部の激励を兼ね、諸先輩方の多数参加を希望いたします。

また新米のクラブですが

— 硬式テニス同好会 —

顧問 竹林 弘敏

硬式テニス同好会は、一昨年十月に同好会になったばかりの、秦高では最も新しいクラブである。練習は主に、学校から約二キロの距離にあるので公園(交通公園)のテニスコートを借りて行っている。公園の事務の方の御好意で、空いている時には三面も四面も貸して戴けるのだが、残念なのは使用時間が限られてしまうこと。三時十五分に授業を終えた生徒達が、ランニングでどんなに急いでコートにかけつけても、ネットを張ったり、ラインを引いたりしていると、練習開始は四時頃、しかし、四月・五月の使用時間は五時までということで、約一時間も打っているとおしまいなのだ。結局、「まだ明るいのに。」ともの足りない思いで引き揚げて来ることになる。全天候型のコートは四面も持っている菅屋高校のような環境は望むべくもないが、「せめて日が暮れるまでボールが打ちたい」というのが、今の私達の願いである。

昨年四月からは、高体連の各種大会にも出場しているが、成績はまだまだといったところ。ただ、歴史も実績も、そして自前のコートもないが、テニスにかける熱い思いで、他校のテニス部や、他の伝統ある部活に負けぬようにと、部員約八十名、張り切って今日もボールを追いかけている。

記念すべき第一回大会に出場した 女子選手に秦高魂を見た

前顧問 石井隆士

一年間、想い続けた「都大路」。県大会は、第1区小幡佳代子、実現できるかどうかは、県大会一年連続優勝が絶対条件であった。第2区木村周央、第3区畑菜穂子、女子長距離部員10名が苦しく、厳しい練習の成果を発揮し、互いの深い絆に支えられながら試合で力が出せるかどうか、慎重な上にも慎重に練習をし、11月5日を迎えた。男女同日開催それに同時スタートと例年と違う状況の中で行われた大会でもあった。大黒柱である小幡佳代子を第1区に配し、2区木村周央のスピードを最大限に生かし、先行逃げ切りの作戦で臨んだ本番は、結果からすれば圧倒に終わった訳だが、その道のりはごさ、あるいは、学校関係者、Oに変化に富んだというよりは、苦悩に満ちたものだった。選手たちの真剣な眼差し、意気込みといった一言葉や文字では表現できない程すごかった。

県大会は、第1区小幡佳代子、第2区木村周央、第3区畑菜穂子、第4区山田委代子、第5区遠藤和子の各選手が走り、畑を徐く4人の選手が区間1位、畑も区間2位（区間1位と2秒差）とほぼ完全優勝の圧倒的勝利でした。しかも1時間12分45秒は全国ランキング9位の好位置にもいました。そしていよいよ夢にまで見た全国大会。「都大路で走ること」がこの1年の目標でもあり、10名が共通の目標としていたものです。さすが全国大会まで来ると、応援のためのノボリや横断幕のもののごさ、あるいは、学校関係者、O

B、保護者とその応援関係者の人数の多さにもた圧倒されるばかりでした。しかし、選手達の自信に満ちた顔を見た時何かやってくると確信しました。前夜のミ

ティングで心を一つにし、綿密な指示のもとにいよいよスタートを待つばかりです。当日は小雨模様ながら駅伝にとっては好コンディションでした。「秦野高校」の文字の入った小幡佳代子のランシャツを見た時、胸の高なりを覚え少々興奮しました。そしてスタート。5K過ぎまで先頭グループの中でレースを展開した小幡は9位でタスキを渡した。2区木村はスピードを生かし徐々に前との距離を縮め中継点では7位まで順位を上げ



京都西京極にて

ていました。3区畑もよく頑張りが6位に順位を上げるなどテレビにも「秦野」の文字や「秦野高校」の言葉が出ていました。そして4区友広も力を充分発揮したものの順位を12位まで落した。この辺が全国レベルの高さを痛感させられるところであり、層の厚さがあるところであったと思われま。そしてアンカー遠藤が1人抜いて11位に入り記録も1時間12分56秒と県大会とほぼ同じ記録で選手全員が力を出し切ったと思われま。ゴール直後の選手達の満足そうな顔を見た時は1年間の辛かった事が消え去った時でした。この大会のために、同窓会の多大な援助をはじめとして、地域の方々あるいは学校関係者の絶大な御協力、御援助があったからこそ深く感謝しています。本当に有難うございました。ゴールと共に次の大会のスタートが切られ、2年連続出場を目指し選手たちは力強く走っています。

各種引出物・鯉節・花かつお製造元

はせきん
株式会社 長谷川商店

本店 〒254 平塚市千石河岸24-8 ☎(0463) 22-0112 22-0143
ショールーム 〒254 平塚市千石河岸25-3 ☎(0463) 22-0120

長谷川 崇 (高第14回卒)

造林の思い出

(旧職員海老原治三郎先生の)
令嬢海老原かつ子様から海老原先生
の終戦直後のエッセイをお送り
頂きました。スベースの都合で造
林の部分を抜粋して掲載させて頂
きました。なお、海老原先生は去
る五月逝去されました。併せてご
冥福をお祈り申し上げます。

数年前丹沢山麓のJ中学に勤め
ていた時である。皇紀二千六百年
記念に学校林をつくった。二十町
歩の伐採後の山を村から借り、三
年計画でそのうち十五町歩に植林
することになった。一年目・二年
目は順調にいったが、三年目には
困難さが倍加した。大東亜戦の始
まった年で、物資は急につまり働
く生徒には間食をくばることが出
来なくなった。作業用具もいたんて
能率が上がらなくなった。山麓の
低い道路ぞいの所から植林を始め
たので、三年目は高い作業のしに

くい所が残ったことが一番の難点
であったが。私はこの年植林の係
になって大いに苦労した。冬の地
ならし・春の植付けはまだよかつ
た。七月の下草刈りが一番苦しか
った。丈なす雑草。それもススキ
などの硬い草が多く刈りにくい。
じりじり照りつける太陽の下の山
は草いきれでまるで蒸し風呂であ
った。頭がふらふらになって手元
かくるえば折角植えた苗木の頭を
ちよんぎつて全々駄目にしてしま

う。「五十年たつて木を切る時は是
非来てよ。飲み放題・食い放題い
くらでもご馳走しますから」転任
の時冗談まじりにこんなことを言
つて労を労つてくれた先生がたで
あったが。

あれから五年。檜は無事に草の
上までのびたであろうか。杉はこ
の天城の杉のように育つたであら
うか。

昭和21年3月

◎本校第12代校長塚喜一郎先生
(昭和44・47年)より次のような趣
旨のお便りを頂きました。

「広陵」をなつかしく、楽し
く拝見しております。私の在職中、
校長名義であった学校林を同窓会
林に変更しました。その林をいつ
までも大切にしていって下さり嬉し
く思っています。――

校内幹事異動のお知らせ

本年四月一日付で、飯田重明先
生(高16回)が県立西湘高校へ、
石井隆士先生(高25回)が日本体
育大学の助手としてご榮転されま
した。

飯田先生は昭和51年に着任され、
以来十四年間という長きに渡り、
ご熱心に生徒を指導されました。
教科指導ばかりでなく、写真部の
顧問としても情熱をそそがれ、各
種コンテストで上位に入賞するよ
うな作品を数々生み出す程に生徒

—赤ちゃんからお年寄りまでの医療をめざす—

らくすり十全堂

本店 / 秦野市本町2丁目5番6号
——片町通り第一生命前——

☎0463(81)0031(代)

代表取締役 佐野友保(高・第18回卒)

- ☎0463(77)3271
- ☎0463(78)2031
- ☎0463(78)6231
- ☎0463(87)1560
- ☎0463(83)0030
- ☎0463(83)3931
- ☎0463(83)4031
- ☎0463(78)3221



料亭

六みや

御宴会場・料理出前
TEL 伊勢原 (95) 0538
(95) 0209

伊勢原駅北口徒歩8分



の撮影技術を向上させて頂きました。校内幹事としては、名簿の仕事を引き受けて頂き、会員の住所変更等の処理、一万五千を越える会報の宛名の印刷、また60周年記念事業の一環として発刊された会員名簿作成の際には、編纂の主力として、並々ならぬ御苦勞を頂きました。

物故者

慎んでお悔やみ申し上げます。
客員 在職期間

石井先生は昭和54年に保健体育の教師として着任され、校内一万メートル等の体育行事の中心として尽力頂きました。数多くの陸上部員が、関東・全国レベルの大会に出場し、秦野高校の名が全国に広まったのも、顧問としての先生の毎日の御指導の賜物と心から感謝申し上げます。校内幹事としては、庶務係として数々の文書作成・印刷や、一万五千に上る会報を封筒に入れたり、地域ごとに分類し、また発送するという大変な仕事をして頂きました。

二人の転勤に当り、心から御苦勞様でしたと申し上げ、感謝の

意を表します。

最後になりましたが、青木利之先生(高4回)が、本校の教頭にご栄転されましたことをお知らせ致します。

- 山下 大五郎(美術) (S.4) (S.6)
- 服部 藤敏(国漢) (S.4) (S.21)
- 海老原治三郎(地理) (S.12) (S.17)
- 草山 権平(教練) (S.17) (S.21)
- 内山 剛一(英語) (S.50) (S.63)
- 中2 安部富穂 中20 中村勝洋
- 中7 山崎敏雄 高7 鈴木卓爾
- 中7 小泉 忠 高13 関野美智子
- 中7 青木 基 高42 神 節子
- 中11 佐次男 高41 田村勝己
- 中20 府川憲久

同窓会名簿

改訂発刊のはこび

創立60周年の記念事業の一つとして同窓会名簿を刊行いたしました。この度改訂版を来年七月に発行することになりました。十年周期の刊行でしたが時代の要請か五年目にあたる年来に発行する機会があがり五月十二日の幹事会において正式に決定しました。前回と同じ日本名簿出版と契約し、近期中に調査カードが送付されます。御協力をお願いします。価格は四五〇〇円です。

原稿を

お寄せ下さい

同期会・クラス会だより、近況報告など、原稿を(七〇〇字以内で)お寄せ下さい。

〒257 秦野市下大槻一三
秦野高等学校内
同窓会報委員会宛

編集後記

前回の会報から、表紙を二色印刷にし、紙質を向上させました。読みやすくなったと、概ね好評のようですが、いかがでしょうか。ほんの小さな冊子ですが、一万五千人を超える同窓生の絆となればと思い、多くの方の御支援を頂きながら、努力致しております。今後も、より親しまれる会報を目指して、頑張りたいと思っております。御支援・御助言頂ければ幸いです。(重立)

送金の方法

振替送金の場合は、同封の振替用紙に所要事項御記入の上、最寄りの郵便局で御送金下さい。別振替手数料を要します。千円までが三十円、五千円までが五十円です。なお、郵便局の受領証にて本会の領収書にかえさせていただきます。(青木配)

秦野高校同窓会報委員会

〒257 秦野市下大槻一三番地
県立秦野高等学校内
電話 〇四五(一) 四二二一―三
振替口座 東京二―二二六八九
発行責任者 上村相模 (中14回)
編集責任者 石井郷二 (高7回)
重立正宏 (高30回)
北村和一 (高25回)